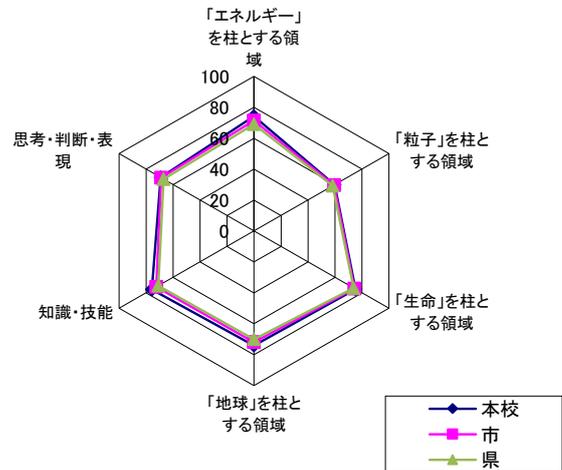


宇都宮市立錦小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	74.2	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	59.7	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	75.2	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	74.1	72.0	70.1
観点	知識・技能	75.7	72.5	70.9
	思考・判断・表現	69.2	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、県や市より高い。 ○近づける磁石の極と、引き合うか退け合うかの組み合わせとして正しいものを選ぶ問題の正答率は、県の正答率を11.8ポイント上回っている。 ●輪ゴムの数と車が動いた距離の関係を適切に表した棒グラフを選ぶ問題の正答率は、県の正答率を2.3ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な物を用いて実験したり、映像を見せたりして、できるだけ体験的な学習を行い、事物の現象への理解を深められるようにする。 ・実験を行う際に、児童全員が用具に触れることができるようにし、実験用具の正しい使い方を定着できるようにする。 ・実験後のまとめでは、児童自身が考察する時間を確保し、さらに全体で話し合っ結果をまとめることで、科学的
「粒子」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、県や市よりやや高い。 ○実験結果から推測して、重さを揃えた異なる材質のおもりのうち最も体積が大きいものを答える問題の正答率は、県の正答率を4ポイント上回っている。 ●実験結果から同じ体積でも材質の種類によって重さは異なることを答える問題の正答率は、県の正答率を4.2ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の目的をしっかりとおさえて、児童一人一人が予想を立てる活動を重視し、思考力を伸ばしていく。 ・粘土、木、金属などの様々な実験材料を用意し、一人一人の児童が実際に実験で扱えるようにする。 ・実験後には、児童自身が結果をまとめる時間を確保し、全体で話し合っ結果をまとめるようにする。
「生命」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、県や市よりやや高い。 ○ホウセンカが育つ順番に図を並び替える問題の正答率は、県の正答率を8.8ポイント上回っている。 ●モンシロチョウとの比較を基に、クモが昆虫といえるのかを述べた文章として正しいものを選ぶ問題の正答率は、県の正答率を2ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物や昆虫の育ち方について、実物や映像を見ながら確認し、いろいろな生き物の育ち方について理解できるようにする。 ・植物や昆虫を観察して記録し、差異や共通点について話し合い、理解を深めることができるようにする。 ・昆虫の学習については、野外での観察活動を重視しつつ、1人1台端末などのICT機器も有効に活用する。
「地球」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、県や市より高い。 ○午前と午後、日なたと日陰で地面の温度を調べた結果を適切にまとめた結果を選ぶ問題の正答率は、県の正答率を8.7ポイント上回っている。 ○方位磁針の使い方を身に付けているかどうかみる問題の正答率は、県の正答率を4.7ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に屋外で1日のかげの動きを観測し記録する際、方位磁針で方位を調べたり、太陽はかげの反対にあることを確認したりして、太陽の動きについて理解できるように支援する。 ・方位磁針の使い方については、デジタル教科書やICT機器などを活用して使い方のポイントをおさえるとともに、一人一人が実際に方位磁針を手にして活動する時間を十分に確保する。